

「青葉若葉」、「鮎解禁」、「旬の味の朴葉寿司」

季節感あふれる言葉があちらこちらの会話に踊り、今年も梅雨から盛夏へ時節(とき)が移り変わろうとしています。

今年の記念すべき 30 回目の「つちのこフェスタ 2018」は、大雨が予想されたため苦渋の決断で中止としました。開催を楽しみにしておられた全国のつちのこファンの皆様や、開催に向けて色々な準備をしていただいた関係団体の皆様には、多大な御迷惑をおかけすることになり申し訳なく思っております。

しかし、このイベントの注目度の高さに改めて驚愕しております。というのは中止になったということが全国ネットのテレビ報道番組で取り上げられたことや、開催を確認するために村のホームページへのアクセス数が 3,000 件近くあったことなどからです。その影響力の大きさを実感し、なお一層しっかりとした運営をしなければならぬという思いを強くした次第です。

今年の反省を踏まえて、開催時期の検討や順延の可能性、中止の場合の決定する時間の問題など、今後実行委員会で協議していただくこととしています。

今回、つちのこフェスタ中止の決定的な要因は、局地的豪雨による河川の増水の恐れや、雨量規制による国道、県道の通行止めの可能性が否めなかったことにあります。

。国道の雨量規制と言え、50 年前の飛騨川バス転落事故が、全国的な規制の発端となりました。私は 50 年前の 8 月 17 日、当時 18 歳の誕生日でよく覚えております。高校三年生の夏休みを我が家で過ごしていたところ、経験したことのないような雨が一晩中止むことなく降り続き、朝には、五加で土砂災害があったことや、飛騨川にバスが転落したこと、JR 高山線が不通になったことなどのニュースが流れてきました。2 学期が始まるまで家にいることになり、救援物資が配布されたことなどを鮮明に覚えております。

一昨年度より国道 41 号線の雨量規制解除と、落石を防ぎ通行の安全性を高めるため上麻生防災事業の採択について、国道 41 号美濃加茂・下呂間強靱化推進同盟会の一員として、国土交通省や財務省へ幾度も要望活動を行ってまいりました。

地元選出の国会議員の皆様の御尽力もあり、七宗町川並と白川町河岐の間の延長約 6.2 キロがトンネルなどで改良されることが決まりました。

広報 6 月号では、台風や大雨の季節に向かう時期であることから、村の防災対策について特集しております。ここ数年大規模な災害が無く、嬉しく思っておりますが、地球温暖化の影響もあり、いつ局地的な豪雨となってもおかしくありません。大地震の脅威もあります。

災害に強い村を目指してソフト、ハード両面での備えを強化する努力は継続してまいります。「公助」には限界があります。まずは「自助」そして「共助」が地域力として発揮できる村にしていくため、皆様には不断の危機意識を持っていただくことと防災に関するご協力をお願いする次第であります。

平成 30 年 6 月

東白川村長 今井俊郎